

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 4 日作成)

小委員会名	構造連成小委員会	主 査 名：登坂宣好 就任年月：2004 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (シェル・空間構造運営委員会)	委員長名：和田 章 主 査 名：大森博司
設 置 期 間	2004 年 4 月 ~ 2008 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・大型構造物の風や波浪等の流体および地盤との連成系に対して、構造物の性能評価および問題点を探り、その解決策を示す。 ・実験と数値計算等による構造物の性能評価の係わり検討する。 ・設計に反映させる合理的でかつ実用的な評価法を探る。 ・刊行物の出版に向け、その内容の検討を行なう。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：なし 登坂宣好(東京電機大)、近藤典夫(日本大学)、遠藤龍司(職業能力開発総合大学校)、大嶋昌巳(千代田アドバンスト・ソリューションズ)、高野真一郎(大林組)、西村敏雄(日本大学名誉教授)、濱本卓司(武蔵工業大学)、福住忠裕(神戸大学)、松井哲哉(名城大学)、皆川洋一(鹿児島大学)、山田貴博(横浜国立大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2007 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1 . 流体と構造連成系に対し構造物の振動現象や流体運動等が示され、それらの現象を把握し、その現象の解明に努めた。 2 . 流体と構造物の連成解析の効果的かつ安定な計算手法についての検討を行なった。 3 . 成果刊行物の目次とその内容について詳細な検討を行い、執筆の開始を始めた。この刊行物に関しては次期小委員会に引き継ぎをし、出版物や資料として公表する予定である。 4 . 構造物の連成系問題の研究成果について広く議論・検討を行なうことができ、かつ、刊行物の公表に向けた検討が出来、概ね満足のいく内容であった。
委員会活動の問題点・課題	1 . 流体と構造物の連成問題に関しては、数値計算による現象解明の議論に偏り、实在構造物や実験状況などについての議論が十分に出来なかった。 2 . 刊行物の出版に向けた取り組みを始めるのに時間がかかり、公表が間に合わなかった。